

# 東京外国語大学語劇の歴史

参考文献：東京外国語大学同窓会名簿 東京外国語大学沿革史

- ・誰か一人強引にでも皆を引っ張っていく力のある人が必要。やるべき事をやるべき時期にやれず、とても直前で慌てた。小語科では有志のみが参加することは不可能なので、やる前に皆の意思をもっと確かめておくべきだった。
- ・もっと表現練習したかった。(97B)

## Q 1 5、語劇に参加して良かったと思われる点をお書きください。

- ・ESSは暗いというイメージを払拭できた。先報、メンバーを楽しませることができた！みんな集まってやって、団結する機会となり仲良くなった。(01ESS)
- ・授業が面白かった。皆と妙なコミュニケーションをとるようになった。(誰かがセリフを喋るとつられて喋る。)生まれて初めて花が複数入ってる花束をもらった。(00Tr)
- ・普段話さない人とも役を通じてふれ合えたこと。充実感があって、観客のアンケートを得られたこと。(00F)
- ・ポーランド語で劇をするという、多分一生に一度しかできないだろう経験が出来たこと。(99Po)

## Q 1 6、最後に来年へのメッセージをお願いします。

- ・語劇をやるのは楽しいばかりでなく、むしろすごく苦勞します。しかもその苦勞が必ずしも報われるとは限りません。でもそれでも語劇をやったらやっただけの何かは残ります。やるなら頑張ってください。(01H)
- ・大語科は特に仕事の分担をすることになると思いますが、代表者はこまめに密に連絡を取るべきです。しつこいくらい。(01F)
- ・来年そのどの語科さんも成功を祈っています。(01ESS)
- ・語劇は長時間かけて準備するもので、各人の負担が大きく大変です。代表者は皆を最後まで盛り立てて引っ張っていくリーダーシップを問われるでしょう。日本とは、言語も文化も違う劇を演じるのは様々な困難がありますが、全ては終了した後の拍手と、「良かった」と言ってくれる観客の方、打ち上げのビールでキャラになります。後に残るは良い思い出(かな?) (00Tr)

## ( 2 4 )

会を開催、各語部が特色ある展示を凝った。

- 1932 (昭7) 勝負意識過剰を冷却するため、外大戦中止。
- 1934 (昭9) 北区西ヶ原の敷地に新校舎建設が決定。
- 1936 (昭11) 時局緊迫。外語伝統の語劇は今回を以て中止となる。
- 1944 (昭19) 東京外事専門学校と改称。
- 1947 (昭22) 文化祭が催される。昭和5年以來17年ぶりということで世間情展覧会や模擬店、演劇、ダンスパーティなど。9日、大阪を迎えて戦後第1回大阪戦。  
10月31日から11月2、3日有楽町朝日ホールで戦後復活第1回語劇が行われた。演題は、  
英：ジュリアス・シーサー、仏：田舎紳士、伊：トロンボンふきのラファエロ氏、葡：心の嘆き、露：どん底、中：空城の計、独：シュツフェンシュクイン家の女々、西：スペイン人形奇想曲、蒙：草原に死す、馬：回と愛、印：アナル・カリ、シャム：白象、で12語科が上演した。
- 1948 (昭23) 語劇に初めて女子が出演
- 1949 (昭24) 5月東京外国語大学に改革。定員350名、E、F、I、D、R、S、P、C、M、I、n、M、a、Tの12語科。
- 1950 (昭25) 外事学校最後の語劇大会。原中も出演。本年度3月卒業をもって東京外事専門学校時代が終わる。
- 1952 (昭27) 西ヶ原の新校舎完成。新制大学切り替えの年で卒業生なし。
- 1953 (昭28) 全学移転完了。新制大学第1回卒業生を出す。265名。
- 1959 (昭34) 創立60年記念講堂を建設。資金は企業・同窓・教授・職員など広範の賛助によって達成された。
- 1960 (昭35) 1年制留学生別科を改め、3年制留学生別科を設ける。
- 1961 (昭36) アラビア語科新設。第4回外語祭は語劇祭と統合され、E、F、I、D、R、S、P、C、M、H、I、n、T科の他、留学生、教授、演劇部による劇、展示や講演会など6日間に及ぶ。
- 1963 (昭38) インドシナ語科の一部としてベトナム語科増設。
- 1964 (昭39) アジア・アフリカ語文化研究所(A・A研)設立。アラビア科を加えて13語科の語劇。
- 1966 (昭41) 大学院(修士課程、2年制)新設。第47回外語祭は5日間に。仏語劇は教室で上演している。
- 1968 (昭43) 特設日本語学科(4年制)新設。学園紛争拡大。この年の第49回外

## ( 2 6 )

## ( 2 5 )

- 語祭を最後に3年間の空白。
- 1972 (昭47) 復活第50回外語祭。4日間に短縮。
- 1974 (昭49) 第52回。語劇は8団体のみで上演。翌年は4団体し。
- 1976 (昭51) 第54回。5日間に。また初めて前夜祭が行われる。「語劇再興」の方針。10団体が上演する。1年生語劇、2年生語劇に分かれた語科も。全語科上演が夢だった。前年まで旺文社の広告が裏表紙を飾っていたが、この年は中3/1に縮小。翌年は消滅している。
- 1977 (昭52) 朝鮮語学科復活。大学院に地域研究科新設。
- 1978 (昭53) かの入門委員社長。水曜→日曜という今の日程に落ちつく。語劇は日本語科、教授劇等も入れて14団体が上演。
- 1979 (昭54) 岡古館開館。第57回外語祭は、10月から改装教室使用問題で揺れる。初の野外ステージ設置。語科料理店がなり出そう。
- 1980 (昭55) ヘルシア語科新設。
- 1981 (昭56) 語劇は20語科を数え、講堂スケジュールはパンク状態。1時間枠で9語科上演の日もある。
- 1983 (昭58) この年の企画数125あまり。パンフレットの形態も今の感じに落ちつく。体育室で劇をやった企画あり。
- 1985 (昭60) 第63回。語劇は全語科出そう。1語科1語劇。
- 1990 (平2) 講堂スケジュールはほぼ2時間枠になる。
- 1993 (平5) 8月講堂崩壊。第1回体育館語劇。
- 1995 (平7) 語劇参加団体は24団体。A、B、Ca、Cz、D、E、F、I、n、J、L、M、Ma、Ph、P、I、Po、Pr、Rr、S、T、Tr、U、V、ESP、ESS。講堂スケジュールは2時間枠。

## ( 2 7 )